



いつもご覧いただきありがとうございます。
今回のテーマは【BPSD 関連項目】について取り上げます。

eラーニングより



【4-13 独り言・独り笑い】基本調査で、どの選択肢を選択すればよいですか。
場面や状況とは無関係に、明らかに周囲の状況に合致していないにもかかわらず、独り言を
言い続けることが週1回ほどある。家族は今のところ、なにも対応していない。

- ① 「ある」を選択し、特記事項に家族の対応状況を記載する
- ② 「ときどきある」を選択し、特記事項に家族の対応状況を記載する
- ③ 「ない」を選択し、特記事項に家族の対応状況を記載する

eラーニング【解説】【調査上の留意点】

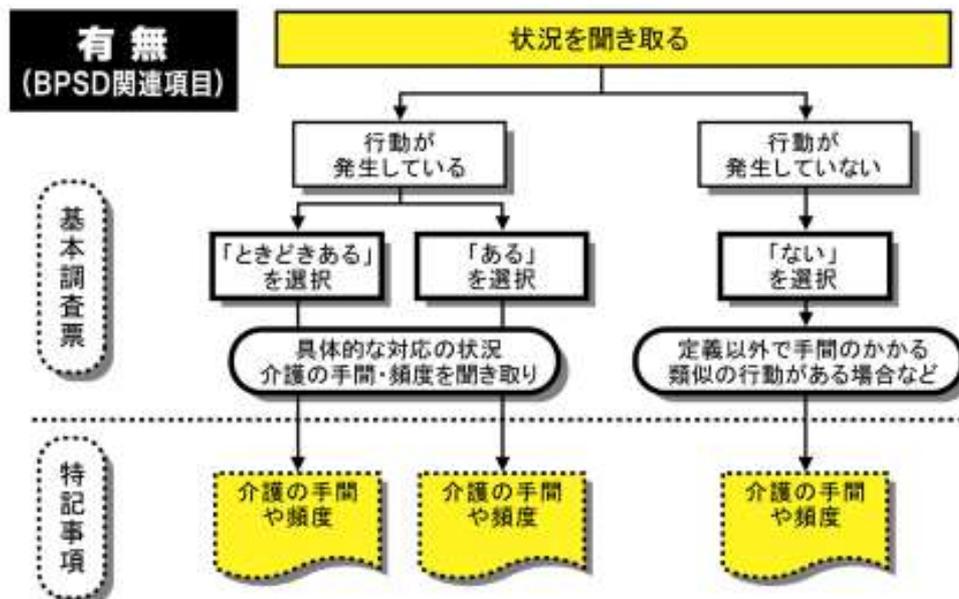
BPSD 関連の基本調査項目は、過去1か月間の状況から、現在の環境でその行動が現れたかどうかに基づいて選択します。

BPSD 関連の基本調査項目は、その有無だけで介護の手間が発生しているかどうかは必ずしも判断できないため、二次判定で介護の手間を適切に評価するためには、特記事項に、それらの有無によって発生している介護の手間を、頻度も合わせて記載する必要があります。また、介護者が特に対応をとっていない場合などについても特記事項に記載します。 A. ①

🌸 BPSD 関連で注意すべき点

◎この項目は、行動が発生しているかどうかで評価をします。介護の手間があるかどうかでは判断しません。日常生活上の支障があるかどうかで判断することも誤りです。定義された行動がその人から出ていれば評価してください。介護の手間があるかは、選択には直接影響しません。

調査の基本的な方法



3群（認知機能）との違い

4群（精神・行動障害）は対象者の行動の頻度を評価する項目です。認知能力を問うている項目ではありません。そのため特記事項の書き方も違ってきます。

第4群

- 特記事項の記載ポイントは2点 「行為への対応（介護の手間）」と「頻度」
- BPSD関連は、選択と特記事項で視点が異なる
- ◆ 選択基準 = 「行動の有無」とその「頻度（ある・ときどきある）」
- ◆ 特記事項 = 「介護の手間」の具体的な「内容」とその「頻度」

そのため、「行動」の有無と「介護の手間」の有無が一致しないケースでは、特記事項が審査会にとって特に重要な情報となる。

選択が「**ある**」であって「**介護の手間**」が発生していない場合

選択が「**ない**」であって「**介護の手間**」が発生している場合

他方、第4群の項目は、家族等への聞き取りによることから、定義にうまく当てはまらない場合や、頻度等が不詳な場合が発生しうるが、これらについても特記事項に記載することが重要です。

ひとつの特記事項から調査項目を複数選択する場合があります

申請者に観察された特定の行動が、調査項目上、複数の項目にまたがる場合、該当するすべての項目を選択します。

令和元年度 厚生労働省 認定調査員能力向上研修会資料より(一部改編)

例) 大声でしつこく同じ作り話を繰り返す。

この例文の場合は、

4-2 作話 4-5 同じ話をする 4-6 大声をだす の 3 項目に該当します。

※ 週1回、月2、3回など、頻度によってチェックを判断します。



別紙「eラーニング問題集 奈良市かいごふくしか介護認定調査だよりNo.11」にてeラーニングシステムより抜粋、今回のテーマに合わせた問題を5つご用意しました。是非、チャレンジしてみてください。

<https://cms.city.nara.lg.jp/uploaded/attachment/116367.pdf>

介護認定調査だより(No.5)を、もう一度振り返ってみましょう。



アンケートにご協力ください。

今後の「介護認定調査だより」に取り上げて欲しい調査項目を教えてください。